

博士論文（要約）

日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造

言語情報科学専攻

金 恩愛

目次

第1章 序論	1
1.1. はじめに	1
1.2. 本論の課題	2
1.3. 各章の内容	3
第2章 本論で扱う現象と先行研究	4
2.1. 「表現の志向性」に関する研究	4
2.2. 日本語と韓国語の表現の志向性に関する研究	7
2.3. 現状における課題	
第3章 研究方法	17
3.1. 表現様相の対照研究の原則	17
3.2. 本研究の研究方法	19
第4章 「名詞表現」に関する概観	25
4.1. はじめに	25
4.2. 基本的な考え方	25
4.3. 本論における名詞表現の範囲と下位範疇	25
4.4. 「重名詞 (heavy noun)」と「軽名詞 (light noun)」	27
4.5. 「実質用言」と「機能用言」	29
4.6. 名詞表現と動詞表現について	30
4.7. 日本語の名詞表現志向の背景：「名詞＋の＋名詞」を例に	31
第5章 日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向	40
5.1. はじめに	41
5.2. 主語における名詞構造と動詞構造	41
5.3. 目的語における名詞構造と動詞構造	52
5.4. 修飾語における名詞構造と動詞構造	60
5.5. 述語における名詞構造と動詞構造	70
5.6. おわりに	85

第6章 日本語の「名詞類＋する」構造—典型例その1 ————— 88

6.1.	はじめに	88
6.2.	「名詞類＋する」における表現様相	93
6.3.	「名詞＋ ϕ ＋する」における対称構造と非対称構造	93
6.4.	「名詞＋を＋する」における対称構造と非対称構造	113
6.5.	「名詞＋が＋する」における対称構造と非対称構造	122
6.6.	「名詞＋に＋する」における対称構造と非対称構造	127
6.7.	おわりに	137

第7章 日本語の「～さ」名詞構造—典型例その2 ————— 139

7.1.	はじめに	139
7.2.	言語資料と研究方法	140
7.3.	日本語の「～さ」の韓国語での現れ方	141
7.3.1.	[体言＋の＋～さ]構造における日本語の「～さ」の韓国語での現れ方	141
7.3.2.	[用言＋～さ]構造における日本語の「～さ」の韓国語での現れ方	143
7.3.3.	[指示連体詞＋～さ]構造における日本語の「～さ」の韓国語での現れ方	146
7.3.4.	[ϕ ＋～さ]構造における日本語の「～さ」の韓国語での現れ方	148
7.3.5.	いわゆる尺度名詞と呼ばれる一群の単語	150
7.4.	おわりに	151

第8章 結論 ————— 153

8.1.	総括	153
8.2.	本研究の意義	154
8.3.	本論の限界・問題点	155
8.4.	今後の課題と展望	156

参考文献 —————

160

言語資料 —————

171

1. 問題設定

「あることがらを言語上でいかに表現するか」という、表現のありかた、あるいは表現の志向性の総体を「表現様相¹」と呼ぶ。日本語と韓国語の間には文法的な類似性があるが、表現様相のレベルでは、それぞれの言語の精緻な「その言語らしさ」が互いに対峙している。例えば、次のような日本語と韓国語を対照してみよう：

- (1) 雨の日に会っためがねの子覚えてる？
비 오던 날 만났던 안경 낀 애 기억나?
(lit. 雨降っていた日会っためがねかけた子記憶出る?)
- (2) 明日のパン、ある？
내일 먹을 빵 있어?
(lit. 明日、食べるパンある?)
- (3) 今日も歩き？
오늘도 걸어서 가?
(lit. 今日も歩いて帰る?)
- (4) ママ、私、背の高さ、〇〇ちゃんに勝った！
엄마, 나, 〇〇보다 키가 커!
(lit. ママ、私、〇〇ちゃんより背が大きい。)
- (5) なんか探し物？—— うん、忘れ物。
뭐, 찾는 거야? —— 응, 뭐 좀 잊어버려서.
(lit. なんか探してる？——うん、何かちょっと忘れてしまって)
- (6) あの子、変な歩き方してるね！
재, 이상하게 걷네!
(lit. あの子、変に/可笑しく歩くね)
- (7) 三十九階でエレベーターをおりた。「くすげー高さ」だな」(フォーティーン/104)
39 층에서 엘리베이터를 내렸다. “와, 정말 높다.” (포틴/133)

¹ 金恩愛(2003:4, 78)では、「あることがらを言語上でいかに表現するかという、表現のありかたの総体を〈表現様相〉と呼んでいる。野間秀樹(2012)は表現様相をめぐる議論を〈表現様相論〉と名付け、対照研究学的に表現研究を見る等、様々な観点から表現様相論研究の可能性を論じている。

(lit. 39 階でエレベーターをおりた。わー、<本当に高い>)

以上にあげた例は、いずれも、日本語では名詞を用いた表現が自然に成立するところで、韓国語では動詞・形容詞を用いて表現する必要がある（あるいは動詞・形容詞を用いた方が自然である）という例である。本研究は、このような現象を「日本語は名詞表現を志向し、韓国語は動詞表現を志向する」という表現様相の違いと捉え、日本語の「名詞志向構造(nominal-oriented structure)」と韓国語の「動詞志向構造(verb-oriented structure)」について、分析の方法を模索しつつ事例に基づく包括的な記述を試みたものである。

2. 議論の基本的な方向性

本論文は大きく2部に分かれる。第1章から第4章では、本論文の基本的な考え方・方向性に関する議論を展開した。まず**第1章**「序論」で研究背景と本論文の課題、そして各章の内容について述べ、次いで**第2章**では本論文で扱う言語現象と先行研究を確認した。

「日本語では名詞表現が好まれ、韓国語では動詞表現が好まれる」という現象に言及している先行研究の多くは、直観のもとでそれにあてはまる例をあげているのみであり、分析方法や主張の根拠となるデータなどの客観性が必ずしも保証されているわけではない。したがって信頼性の観点から、主観あるいは直観に頼らず可能な限り客観的かつ有効な分析方法を開発する必要がある。本論文では、文法的類似性を持つ日韓両言語が、ある特定の「言語場」における「自然な表現」として、それぞれどのような表現をとるのかを客観的な視点から考察する方法を模索した。表現様相に関する日本語と韓国語間の差異、〈表現の傾向＝表現の志向性〉を、直観に頼らず客観的かつ明確なデータ及び体系的な分析方法で描き出したいと考えた。本論文は以上のような方向性の下に議論を展開する。

第3章では、分析の根幹となる言語資料と研究方法について述べた。本研究は日本語を基準言語として「日本語の名詞表現が韓国語ではいかに現れるか」の詳細な観察・記述に徹した。つまり、日本語と韓国語の対照研究でありつつ「韓国語を鏡として日本語の特徴を浮かび上がらせる」ことに重点を置いたということである。本論文は表現様相の対照研究における言語資料の重要性に鑑み、言語資料の選定には細心の注意を払った。①同じ場面(言語場)で使用される表現の対照を行うために、基準言語の日本語資料に対し、対照言語である韓国語資料は、日本語資料の韓国語版翻訳テキストを用いた。②言語資料の著者・翻訳者が重ならないよう配慮することで、個人差という要因を抑えた。これによりデータの信頼性を高めることができた。③テキスト類型を小説に限定することで、「日本語は名詞表現を志向し、韓国語は動詞表現を志向する」という現象に関する性急な一般化を避けた。限られた資料ではあるが、少なくとも〈小説〉というジャンルについては、一定の傾向を明示しうる段階に至った。④小説の選定にあたっては、東京生まれの作家による作品、1990年以降の作品、現代を背景にした作品、テキストに東京以外の方言が著しく混在していない作品、という4つの条件を満た

すものに限定した。一定の条件で統制されたデータを分析・活用したことで、今後、方言や時代の変遷に伴う「ことばの変化とゆれ」などに焦点を当てて、名詞表現と動詞表現をめぐる日本語・韓国語の対照研究も可能となった。⑤計量調査を行うことで、議論の客観性を高めることができた。

第4章では「名詞表現」を概観した。日本語の名詞に関する諸説を参照しながら、本研究の問題意識とそれらの諸説との関わりを確認した。本研究は包括的な観察を行うことを目的とするため名詞の範囲を広めにとっており、名詞の性質から「名詞的な名詞」「形容詞的な名詞」「動詞的な名詞」「副詞的な名詞」という4つの下位範疇を設定した。

〈表1〉本論における名詞(体言)の下位範疇

名詞 (体言)	単純語	合成語	
		派生語	複合語
名詞的な名詞	雨、顔、鈴木、私、だれ	食事中、初耳、小顔	青空、大雪、年上
形容詞的な名詞	元気、奇麗、ぎりぎり	白さ、不真面目、無縁	買物上手、ほめ上手
動詞的な名詞	約束、仕事	帰り、思い、探し物	恩返し、家族思い
副詞的な名詞	まだ、すぐ、あまり、いつも、 せっかく		

また、意味の重層性(用言性)という観点から、「雨」「めがね」のような単純語を<軽名詞(light noun)>、「家族思い」「恩返し」「小顔」「探し物」のような複合名詞や派生名詞を<重名詞(heavy noun)>として区別した。この区別に基づいて設定した「重名詞+機能用言(function verb)」「軽名詞+実質用言(meaning verb)」という観点も、「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」のメカニズムを解明する上で重要な切り口となる。重名詞と用言が結合するとき、名詞が重くなればなるほど、それに反比例して、用言の役割は軽くなる。そうした場合に用言はしばしば機能用言化²する。

重名詞(heavy noun)+機能用言(function verb≒light verb)

(8) [누나 생각]을 해요. (lit. [お姉さんの思い]をします。)

軽名詞(light noun) + 実質用言(meaning verb)

(9) [누나]를 생각해요. (lit. [お姉さん]を 생각합니다。)

² 村木新次郎(1991:204)によると、機能動詞とは、「ににおいがする」の「する」のように、「実質的な意味が希薄で、述語形式をつくるための文法的な機能をはたしている」動詞である。野間秀樹(1993:148)も同様に、語彙的な意味はほとんど持たず、動詞自体は文法的な機能だけを受け持つ動詞を機能動詞とし、その典型的な例として「하다(lit. する)」をあげている。本稿では、「する」や「하다」のような用言を「機能用言」と呼び、実質的な語彙的な意味を持つ用言を「実質用言」と呼ぶことにする。

もし日本語の「だ」も用言の一つと見るならば³、「[お姉さん思い]です」のような構造も「重名詞＋機能用言」の構造だと見る事ができよう。以下は、日本語の「重名詞＋機能用言」構造が韓国語では「軽名詞＋実質用言」で現れる例である。

(10) 私の猫背は〈母親譲り〉です。

내 등이 굽은 건 엄마를 닮았어요.

(lit. 私の背中が曲がったのは母に似ました)

以下は、本論で考えている名詞表現と動詞表現の大まかなイメージである。〈図1〉の左側にも右側にも名詞は使われているが、使われている名詞の性質(軽名詞/重名詞)と用言の性質(機能用言/実質用言)に注目する必要がある。

← 名詞度が強い	動詞度が強い →
<p>〈重名詞〉</p> <p>君の<笑顔>が好き。</p> <p><靑空>を見ながら～</p> <hr/> <p>〈軽名詞〉＋機能用言</p> <p><話>をした。</p> <p><本>にした。</p> <p>〈重名詞〉＋機能用言</p> <p><母親譲り>です。</p> <p><忘れ物>をしちやって～</p> <p>〈重名詞(句)〉＋機能用言</p> <p><きれいな字>ですね。</p> <p><きれいな顔>をしているね。</p>	<p>〈修飾語＋軽名詞〉</p> <p>너의 <웃는 얼굴>이 좋아. (lit. 君の<笑う顔>が好き)</p> <p><푸른 하늘>을 보면서～ (lit. 靑い空を見ながら～)</p> <hr/> <p>〈軽名詞〉＋実質用言</p> <p><애기>를 나눴다. (lit. 話を交わした)</p> <p><책>으로 만들었다. (lit. 本に作った)</p> <p>〈軽名詞〉＋実質用言</p> <p><엄마>를 닮았어요. (lit. 母に似ました)</p> <p><뭐> (좀) 잊어버려서～ (lit. 何(ちょっと)に忘れてしまっって～)</p> <hr/> <p>〈軽名詞〉＋実質用言</p> <p><글씨>가 (참) 예쁘네요. (lit. 字が(本当に)きれいですね)</p> <p><얼굴>이 (참) 예쁘네. (lit. 顔が(本当に)きれいな)</p>

³ 亀井孝他(1996：1370)の「用言に属する品詞」を参照。

〈図1〉日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現

このように名詞の性質(軽名詞／重名詞)と用言の性質(機能用言／実質用言)を関連付けて、名詞度と動詞度の強弱に注目することで、名詞表現と動詞表現の質的な差異に接近できることを示した。

3. 言語資料の計量的調査とその分析

本論文の中心をなす第5章から第7章では、条件を統制した言語資料(日本語の小説と、その韓国語版翻訳書)を計量的に調査しつつ、各章の分析方法に基づき具体的な考察を行った。

第5章では、「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」の全体像を示した。①文の成分、②「名詞的な名詞」「動詞的な名詞」「形容詞的な名詞」「副詞的な名詞」という名詞の性質から見た名詞の下位範疇、③語彙的な意味の比重から見た<軽名詞>と<重名詞>、以上の3つを複合的な中心軸として、日本語のいかなる性質の名詞が、いかなる構造において、いかなる機能を司るときに、韓国語では動詞構造化するのかを考察した。その結果、文の成分の観点からは「述語>修飾語>目的語>主語」順に動詞構造化の傾向が強く、名詞の性質からは「形容詞的な名詞・動詞的な名詞」における動詞構造化が顕著であった。以下、例を見てみよう。

- (11) <手早さが>ポイントだ。(きらきら/10)

재빨리 해야 한다. (반짝반짝/12)

(lit. 素早くしなければならない)

- (12) またその照らされた<部屋の汚さが>ホラーで、～(インストール/8)

그 빛에 드러난 지저분한 방은 가히 호러적이었다. (인스톨/13)

(lit. その明かりに現れた汚い部屋は十分ホラー的だった)

- (13) <早起きを>し、九時頃家を出ようとした。(一瞬の夏)

일찍 일어나 9시쯤 집을 나오려고 했다.

(lit. 早く起きて 9時頃家を出ようとした)

- (14) 彼は<思い出し笑いを>しながら言うのだった。(A2Z/140)

그는 혼자서 무언가 떠올린 듯 즐거운 표정을 지으며 말했다. (A2Z/136)

(lit. 彼は一人で何かを思い出したように楽しい表情を作りながら言った)

また、「<修飾語+名詞>(を)する/している」のような「<重名詞(句)>+機能用言」構造

における動詞構造化が目立ったのも特筆すべき点である。

(15) 麻子は、つわりがひどいらしく、〈青い顔を〉していた。(姫君/87)

아사코는 입덧이 심한 듯 얼굴이 창백했다. (공주님/86)

(lit. 麻子はつわりがひどいらしく、顔が蒼白だった)

(16) 睦月は短いまつ毛がまっすぐにそろっていて、〈きれいな顔を〉している。

(きらきら/9)

무즈키는 짧은 속눈썹이 가지런하고 얼굴이 예쁘장하다. (반짝반짝/11)

(lit. 睦月は短いまつ毛がそろっていて顔がきれいだ)

(17) ほら、これ、〈面白い形を〉しているよ！(聞き書き)

이거 좀 봐. 너무 재미있게 생겼어.

(lit. これちょっと見て。とても面白くできているよ。)

日本語の名詞表現が韓国語で動詞構造化する要因としては、文の成分より名詞の性質のほうがより強く働いているように見えるが、これについては今後、検討用例の拡大を含めた、より綿密な調査が必要である。

第6章および第7章では、第5章で全体像を把握する際に取り上げた日本語の名詞表現のうち、とりわけ韓国語で動詞構造化が顕著であった類型を扱った。まず**第6章**では、日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造の典型例（その1）として「名詞類+する」の分析を行った。名詞類は、分析の対象となる要素を「名詞部分」と「助詞部分」の2つに分け、一致・不一致を調査した。以下は前項要素の一致の条件である：

1) 品詞の一致：名詞、助詞といった品詞の一致を一致の第1条件とする。

2) 語種の一致：名詞の場合は漢語・和語・外来語といった語種の一致をも条件とする。

名詞類の一致・不一致については、例えば「名詞部分+助詞部分」の両方が一致した場合は「○○」タイプと分類し、名詞部分だけが一致の場合は「○×」、助詞部分だけが一致の場合は「×○」、名詞と助詞の両方が不一致の場合は「××」タイプとして分類する。他方「する」については、韓国語で「하다(lit. する)」が対応する場合、「対称構造(=하다構造)」とし、「하다」以外が対応した場合は「非対称構造(=非하다構造)」と分類した。例えば前項要素で名詞・助詞ともに一致した場合（これを「○○」タイプとする）の対称構造とは、日本語の「結婚をする」が韓国語でも「결혼을 하다(lit. 結婚をする)」のように現れた場合である。このように対応関係を精密に見ていくことで、「名詞類+する」における動詞構造化の究明に向けて一歩前進できたといえる。計量結果を見ると、分析項目すべてが一致する「○○」タイプの対称構造は、全1,053例のうち、360例、34.1%に止まっ

ており、残りの 693 例、65.9%ではなんらか表現のずれが生じている。「名詞類+する」構造で特筆すべき点は、例えば、「〈結婚して〉しまったね」が「결혼을 하고 말았구나((lit. 結婚をしてしまったね)のように現れる①「分離用言における表現様相の違い」と、「いつにする?」「〈本にする〉ことも」が「언제 만날래? (lit. いつ会う?)」「책으로 만들 수도(lit. 本に作ることも)」のように現れる②「代用形(pro-form)」における表現様相の違いである。

第7章では、日本語の「～さ」名詞構造が韓国語でどのように現れるかを考察した。全 942 例のうち、韓国語でも名詞表現で現れた例は 615 例、65.3%である。残りの 327 例、34.7%は名詞表現以外の形で現れた。日本語の「～さ」は、①統辞的に、あるいは意味的に列挙、対比、比喩の対象となる「～さ」派生名詞や、[指示連体詞+～さ]構造における「～さ」派生名詞は、韓国語で名詞化接尾辞「-로/음」の形で現れる傾向が強い。

- (18) 胸の中はもう切なさとか愛しさとか、そんな名前がついた～ (今/119)
가슴 속은 벌써 ‘안타까움’이니 ‘그리움’이니 하는 이름의～ (지금/109)
(lit. 胸の中はもう「残念さ」とか「懐かしさ」とかという名前の～)

- (19) 大きな目、大きな口とが、〈男性的な力強さ〉を感じさせ、～ (恋/56)
큰 눈 그리고 큰 입이 남성적인 강인함을 느끼게 하고, ～
(lit. 大きな目そして大きな口が男性的な強靱さを感じさせ～)

- (20) 作家本人には、一期一会の感情と向かい合うことなのだと痛感する。〈その新鮮さ〉を、一冊一冊、形を変えて～ (AtoZ/185)
작가 본인한테는, 일생에 단 한 번뿐인 감정을 맛보는 일임을 통감한다. 그 신선
함을, 한 권 한 권, 형태를 바꿔가며～ (AtoZ/178)
(lit. 一度だけの感情を味わうことであることを痛感する。〈その新鮮さを〉、～)

신선

これに対して②[体言+の+～さ]構造における「～さ」派生名詞は、語順の変化などを伴って用言構造化する傾向が強い。

- (21) 晴れた日の[空の〈美しさ〉]、[空気の〈清々しさ〉]、人々の[心の〈純朴さ〉]は～ (女たち/14)
맑은 날의 아름다운 하늘, 신선한 공기, 사람들의 소박한 마음은～ (여자들/15)
(lit. 晴れた日の美しい空、新鮮な空気、人々の素朴な心は～)

この構造で注目すべき点は、「〈自分の大胆さ〉」に：자신의 대담함에(lit. 自分の大胆

さに)」「隆志のやさしさ」を：다카시의 친절함을(lit. 隆志の親切さを)」のように、修飾語の体言が人間名詞の場合は「-로/음」の形で現れやすいことである。

(22) 私は隆志の<やさしさ>を呪い<誠実さ>を呪い、<美しさ>を呪い<特別さ>を呪い、<弱さ>を呪い<強さ>を呪った。そして<中略>自分の<弱さ>と<強さ>を、その百倍も呪った。(号泣/231)

나는 다카시의 친절함을 저주하고 성실함을 저주하고 아름다움을 저주하고 특별함을 저주하고 약함과 강함을 저주했다. 나 자신의 약함과 강함을 그 백 배는 저주했다. (울/189)

(lit. 私は隆志の親切さを呪い誠実さを呪い美しさを呪い特別さを呪い弱さと強さを呪った。そして私自身の弱さと強さをその百倍は呪った)

最後に③「高さ」「広さ」「厚さ」といった尺度名詞が尺度性を保つ場合、韓国語では「높이」「넓이」「두께」のような名詞で現れるが、尺度名詞としての中立性を失い程度性が強くなると用言構造化する傾向が強いことが明らかになった。

(23) 何があっても動じない。何事も受け止めることができる。その懐の<広さ>、この先生の持ち味だ。(五体/101)

어떤 상황에서도 침착하였고 또 어떤 행동도 잘 받아 주시는 유별나게 마음이 넓은 분이였다. (오체/112)

(lit. 心が広い方だった)

4. 本論文の意義と課題

最後に**第8章**「結論」では、本論文を総括した上でその意義について確認し、今後の課題と展望を述べた。本論文の意義は、「日本語の名詞志向構造と韓国語の動詞志向構造」を考察・分析するにあたって、

- (1) 表現様相に関する言語間の差異を把握するための方法の開発
- (2) 実例に基づく客観的・包括的・体系的な記述

の2つを重視した点にある。本論文は、「可能性として現れうる表現」ではなく言語資料に「実際現れた表現」を用いることを原則として、

- ①基準言語と対照言語の設定
- ②同一場面の設定（日本語の原著とその韓国語版翻訳書）

③テキスト類型の限定（小説）

④複数母語話者原則（日本語の作家と韓国語版の翻訳者の重複がないように配慮）

⑤計量調査（主張の根拠となる客観的なデータ）

等の研究方法を試み、「名詞志向の日本語 vs. 動詞志向の韓国語」という主張を裏付ける一定程度の研究成果を得た。今後は本論文の不備・不足を補いつつ、今回のアプローチとは逆に、韓国語を基準言語として日本語表現の様相を検討するなどの問題について、順次研究を進めていきたいと考えている。